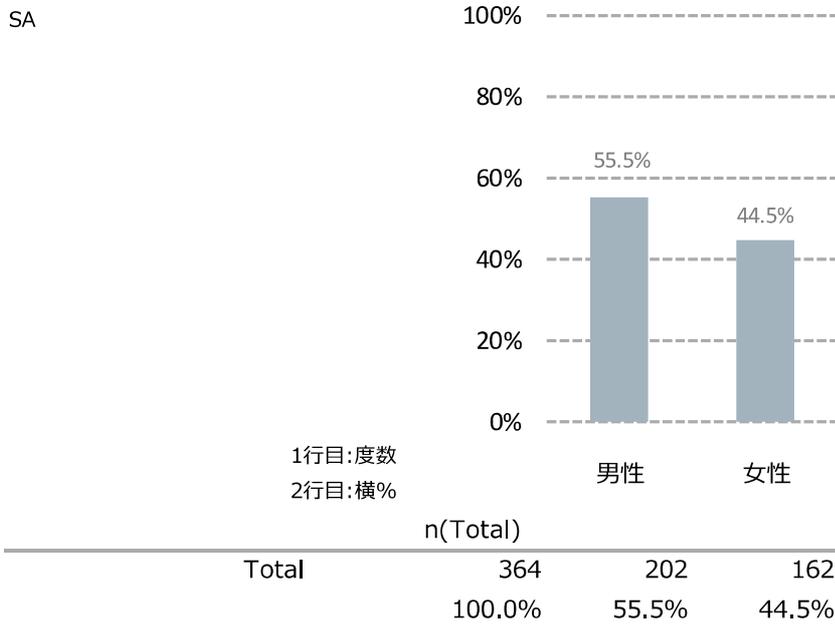


(1) 「考える場」を創出するための取組 ① アンケート調査

【調査結果・考察】

F1 あなたの性別をお答えください。



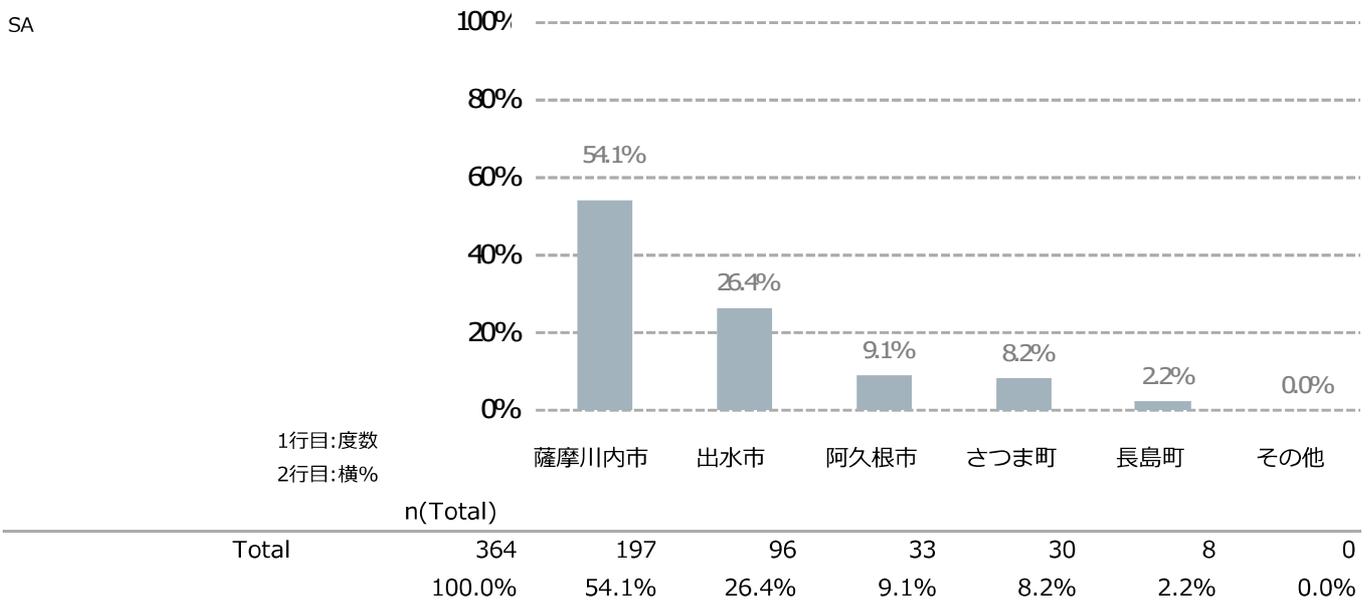
F2 あなたの年齢をお答えください。※詳細はQAGE＊年代を確認

NUM

	横%	平均値	中央値	標準偏差
Total	364	51.0	50	11.51

- ・40歳以上が全体の85.4%（40-49歳の回答者が最多）
- ・30歳以下は全体の14.5%（15-19歳の回答者が最小）

Q1 あなたの居住地を教えてください。

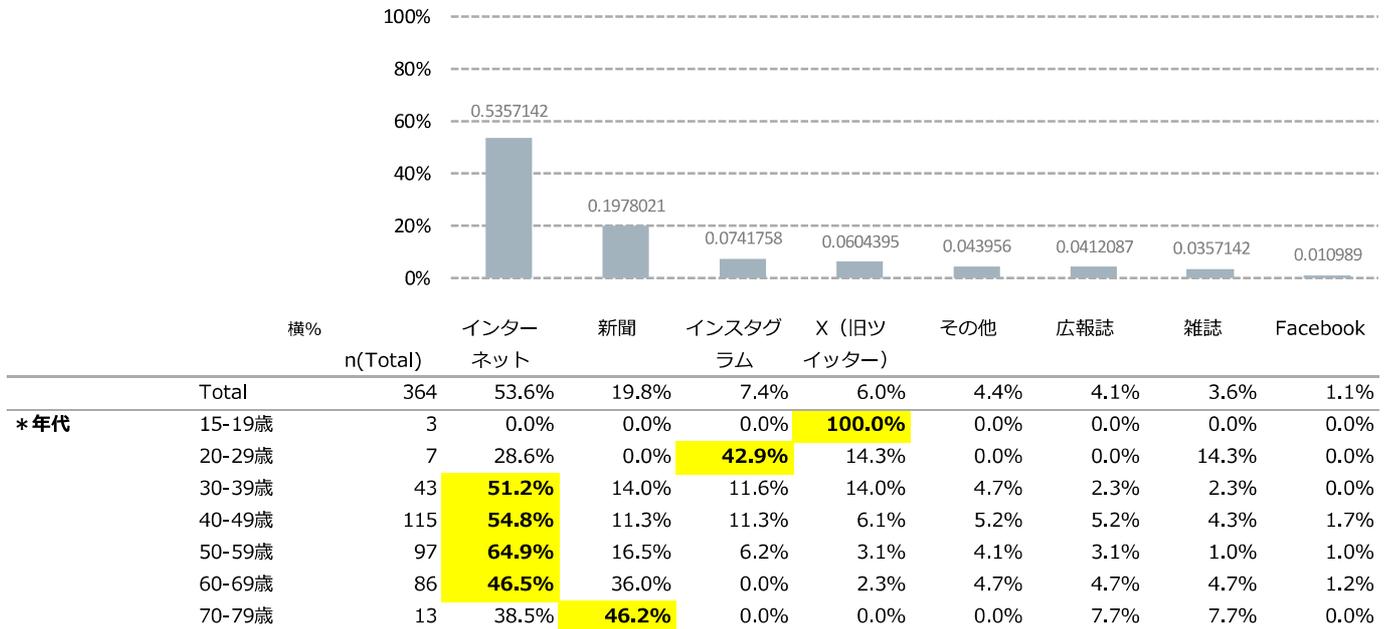


- ・人口に比例した回答分布である。

(1) 「考える場」を創出するための取組 ①アンケート調査

Q2 あなたの情報収集の主な手段を1つ教えてください。

SA



・インターネットで情報を集めると答えた方が最多

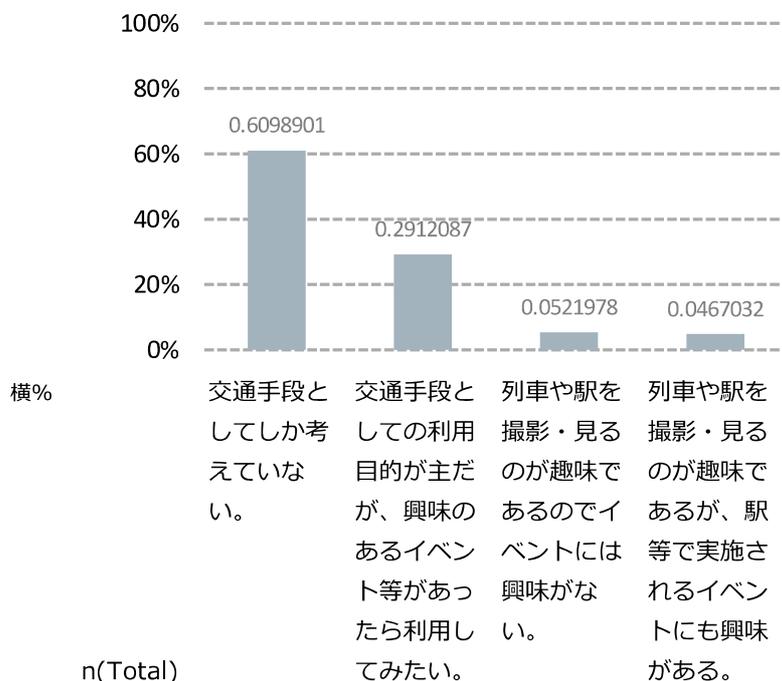
・60歳以上の方でも、インターネットが主な情報収集の手段となっており、ネットで調べることがほとんどの世代で主流になっていることが分かる。

・10代、20代はX（旧ツイッター）、インスタグラムが最多回答になっており、インターネットでもSNSが普及していることが分かる。

(1) 「考える場」を創出するための取組 ①アンケート調査

Q3 あなたの鉄道への興味・関心の程度を1つ選択してください。

SA



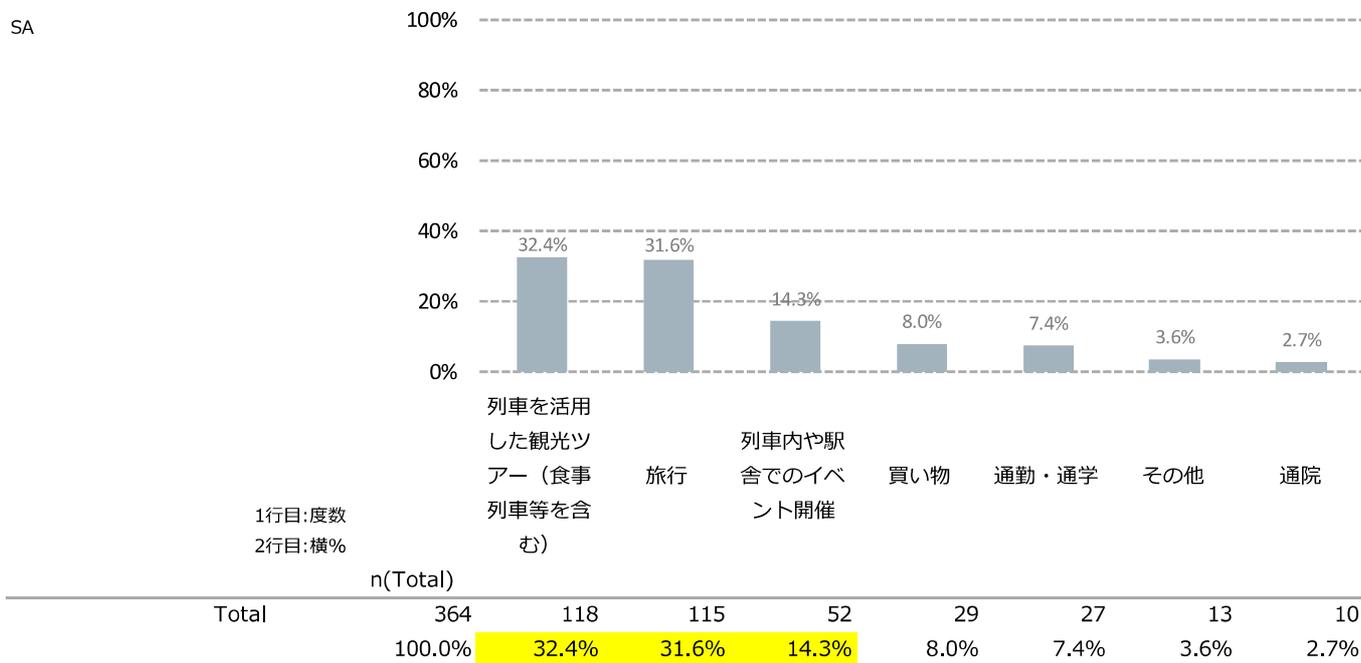
		n(Total)				
Total		364	61.0%	29.1%	5.2%	4.7%
*年代	15-19歳	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
	20-29歳	7	57.1%	0.0%	28.6%	14.3%
	30-39歳	43	72.1%	23.3%	4.7%	0.0%
	40-49歳	115	60.9%	23.5%	7.0%	8.7%
	50-59歳	97	62.9%	29.9%	3.1%	4.1%
	60-69歳	86	54.7%	40.7%	3.5%	1.2%
	70-79歳	13	53.8%	30.8%	7.7%	7.7%

・全世代で「交通手段としてしか考えていない」が最多となった。しかし現状としては利用促進にはつながっていない。

・次点では「交通手段としての利用目的が主だが、興味のあるイベント等があったら利用してみたい」と答えているので、魅力的なコンテンツの創出と広報PRが求められる。

(1) 「考える場」を創出するための取組 ①アンケート調査

Q4 これまでにおれんじ鉄道を利用したことがなく、今後あなたがおれんじ鉄道を利用とした場合、どのような利用目的があれば利用したいか最も適したもの1つを選んでください。（現在、既に利用している方は、現在の利用目的を選んでください。）

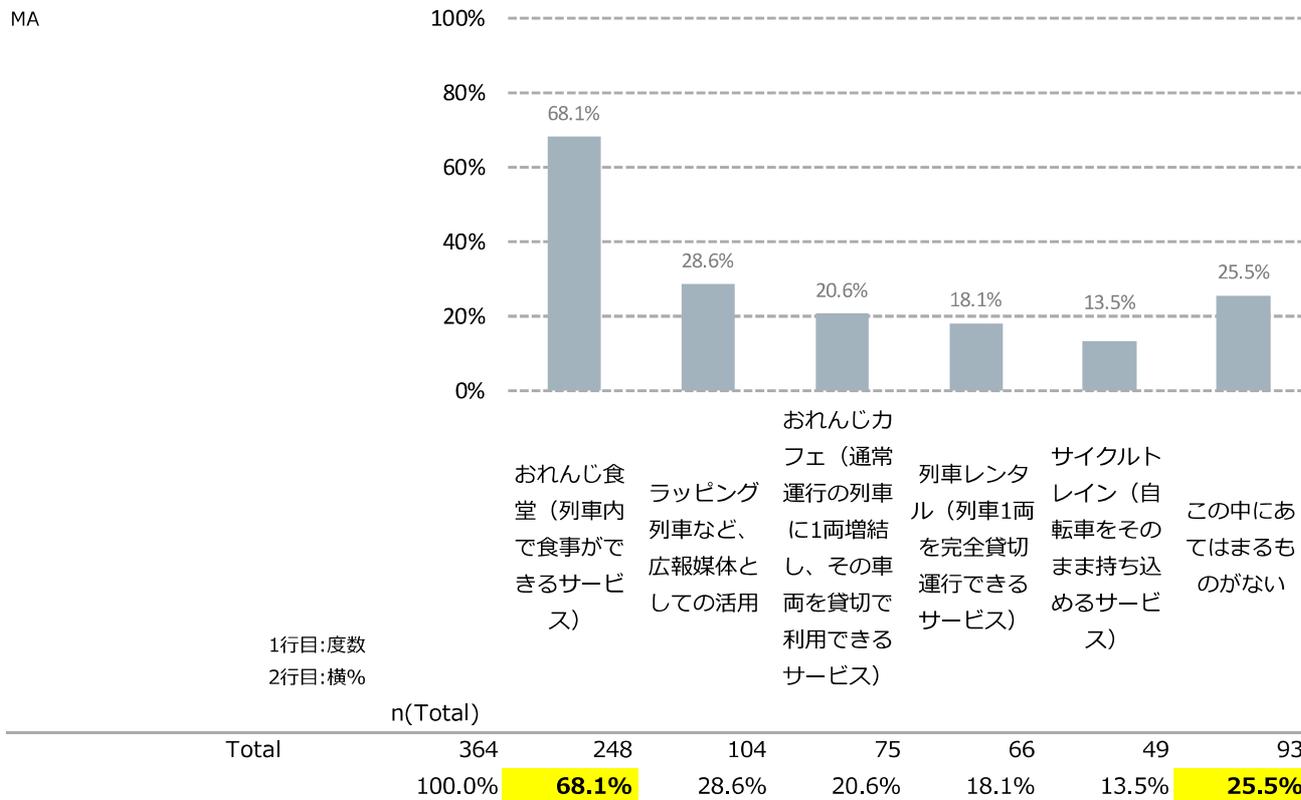


・Q3では「交通手段としてしか考えていない」が最多であったが、買い物や通学など日常利用のニーズは低いことが分かる。

・日常的な利用より、旅行や観光、イベントなど、非日常的な利用が望まれている。

(1) 「考える場」を創出するための取組 ①アンケート調査

Q5 おれんじ鉄道の利用方法として、単なる交通手段以外にも様々な活用方法があります。あなたが知っているおれんじ鉄道の活用方法についてすべて選択してください。(複数回答可)

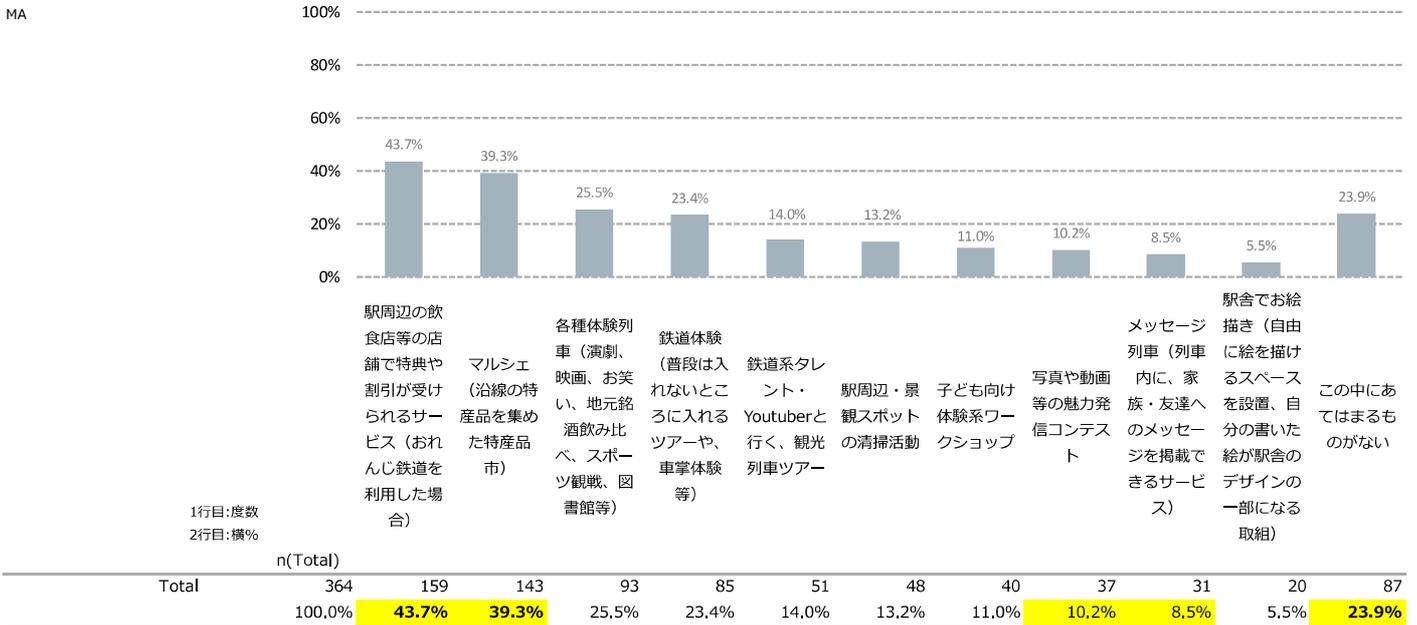


・どの項目も10%以上の認知、特におれんじ食堂は7割近くの認知度があり、沿線地域では認知度の高い取組となっていることが分かる。

・「この中にあてはまるものがない」と答えた方も25%いるため、企画・イベント等について広報PRが不足しているか、PRの方法が適切でない可能性が考えられる。

(1) 「考える場」を創出するための取組 ① アンケート調査

Q6 おれんじ鉄道が実施する取組で、どんな取組だったら協力・参加したくなるか、すべて選択してください。
(複数回答可)



・駅周辺施設と連動した施策やマルシェ等のニーズが高い。令和5年度に実施する事業者キャンペーンや20周年フェスでのマルシェは親和性が高い取組であることが分かる。

・これまで定期的実施されている写真展やコンテスト、メッセージ列車はニーズが低い。企画・実施自体は比較的容易な取組であるが、ニーズに沿わない形であれば、ブラッシュアップや別の取組に変えていく必要がある。

(1) 「考える場」を創出するための取組 ① アンケート調査

Q7 Q6 の選択肢以外で、どんなイベント・取組なら参加したいかお答えください。(自由記述)

- ・特になし、興味がない、そもそも参加したくない
- ・参加費無料
- ・街コン、婚活、お見合いツアー、結婚式、忘年会、新年会、同窓会など、パーティー的な事が出来る
- ・オリエンテーション
- ・ツアー旅行（コンサート、グルメ、沿線観光、お笑いライブ）
- ・各駅でクイズ、正解者にその駅近辺での産物などをプレゼント、謎解き、ミステリー列車、脱出ゲーム、スタンブラー
- ・昔のおれんじ鉄道の写真展
- ・宴会、誕生日プレゼントの食事会、ビール列車（居酒屋列車）、宴会、飲み放題、お座敷列車
- ・一日乗車券で複数の駅で利き酒や地産地消の屋台イベントがあれば参加したい。
- ・食事が出来てゆっくりした一時を過ごせる体験、手頃な食堂列車
- ・1日（1週間・1か月）限定、定額乗車券
- ・1年に1回、片道500円程度で、どこまでも乗れるイベント
- ・地域おこしの催し
- ・景色を見ながら献血
- ・各地方の駅弁販売
- ・おれんじ鉄道と道の駅がコラボしたキャンプ企画
- ・列車で花火大会、イルミネーションをみる
- ・車両基地潜入体験、運転体験
- ・家族で参加できる、子供が楽しめるイベント
- ・ボランティアスタッフをしてみたい
- ・鉄道の色々な事を教えてくれる、働いている人との交流イベント
- ・さまざまなマルシェ、キッチンカーが集まる会、フリーマーケット、ハンドメイド教室
- ・駅舎や周辺スペースでの地域物産の提供
- ・InstagramやXで投稿された、おれんじ鉄道沿線の映像や画像を、実際に自分の目でみてみよう！というようなイベント
- ・お買い物学習
- ・他社鉄道会社の乗り入れイベント & 撮影会や鉄道部品のチャリティーオークション。
- ・バイキング、スイーツ食べ放題
- ・海がとても綺麗なので、夕暮れの海を堪能できるイベント
- ・アイドルイベント、アニメの聖地巡礼的なもの。
- ・子どもが好きなキャラクター関連のイベント。サンリオやすみっこぐらしなど。
- ・コスプレイベント
- ・任天堂キャラクターとのコラボ
- ・残念ながら鉄道自体がいくら頑張っても地域自体の発展がなければ集客は望めないと思う。例えば、特定の駅の前に集客が見込めるような施設（巨大ショッピングモールや水族館、映画館など）を誘致すれば必然的に電車の利用客は増える。Q6の設定問にあるような取り組みで得られる集客は一時的なものでしかなく、もしこれらで集客を得ようとするのであれば、単発・散発的な催事ではなく、通年を通しておれんじ鉄道の駅のあちこちで実施する必要があると思う。

(1) 「考える場」を創出するための取組 ①アンケート調査

Q7 Q6 の選択肢以外で、どんなイベント・取組なら参加したいかお答えください。(自由記述)

- ・地元商店と連携したサービス
- ・高いイメージがあるので、お得感が得られる取組。とにかく料理も高い。
- ・乗車を進める取組。バスとセットになった乗車券
- ・列車の模型が貰えるイベント
- ・鉄道内での新メニューの試食会
- ・男性専用や女性専用ツアーがあると参加しやすいです。
- ・ホームの改装
- ・クラウドファンディング
- ・ラッピングデザイン
- ・情報収集出来るようなイベント
- ・映画やドラマの撮影

・Q6で「この中であてはまるものがない」と答えた方は、Q7でも「特になし、興味がない、わからない」との回答が多い。

・貸切列車を活用することで実施できる取組も多くみられる。

・基本的には単発のイベントに関する意見が主であるものの、駅周辺と連携したイベントの要望もあり、鉄道だけでなく駅周辺環境の改善も求められる。

・キャラクターやアイドルなど、鉄道以外に焦点をあてて、鉄道ファン以外を巻き込む意見も多い。

・子供が楽しめるイベント、男女別の企画など、ターゲットにあわせた企画も需要がある。

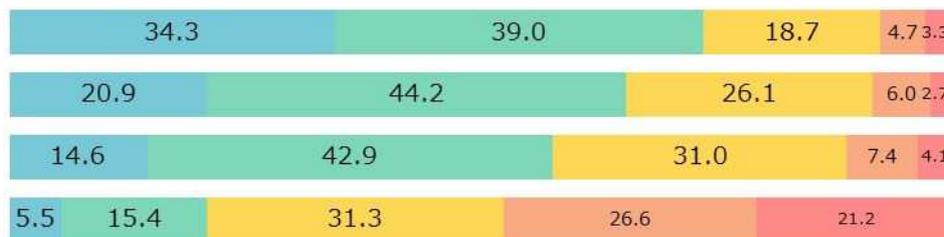
(1) 「考える場」を創出するための取組 ①アンケート調査

Q8 利用する・しないに限らず、あなたはおれんじ鉄道の必要性についてどのように感じていますか。あなたの気持ちに近いものをそれぞれお答えください。

SAマトリクス

1行目:度数 2行目:横%		とてもそう 思う	ややそう思 う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	ほとんどそ う思わない
	n(Total)					
地元住民の 交通手段とし	364 100.0%	125 34.3%	142 39.0%	68 18.7%	17 4.7%	12 3.3%
観光の手段 として必要	364 100.0%	76 20.9%	161 44.2%	95 26.1%	22 6.0%	10 2.7%
地域のつな がり・コミュ	364 100.0%	53 14.6%	156 42.9%	113 31.0%	27 7.4%	15 4.1%
特に必要性 を感じていな	364 100.0%	20 5.5%	56 15.4%	114 31.3%	97 26.6%	77 21.2%

■ とてもそう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ ほとんどそう思わない

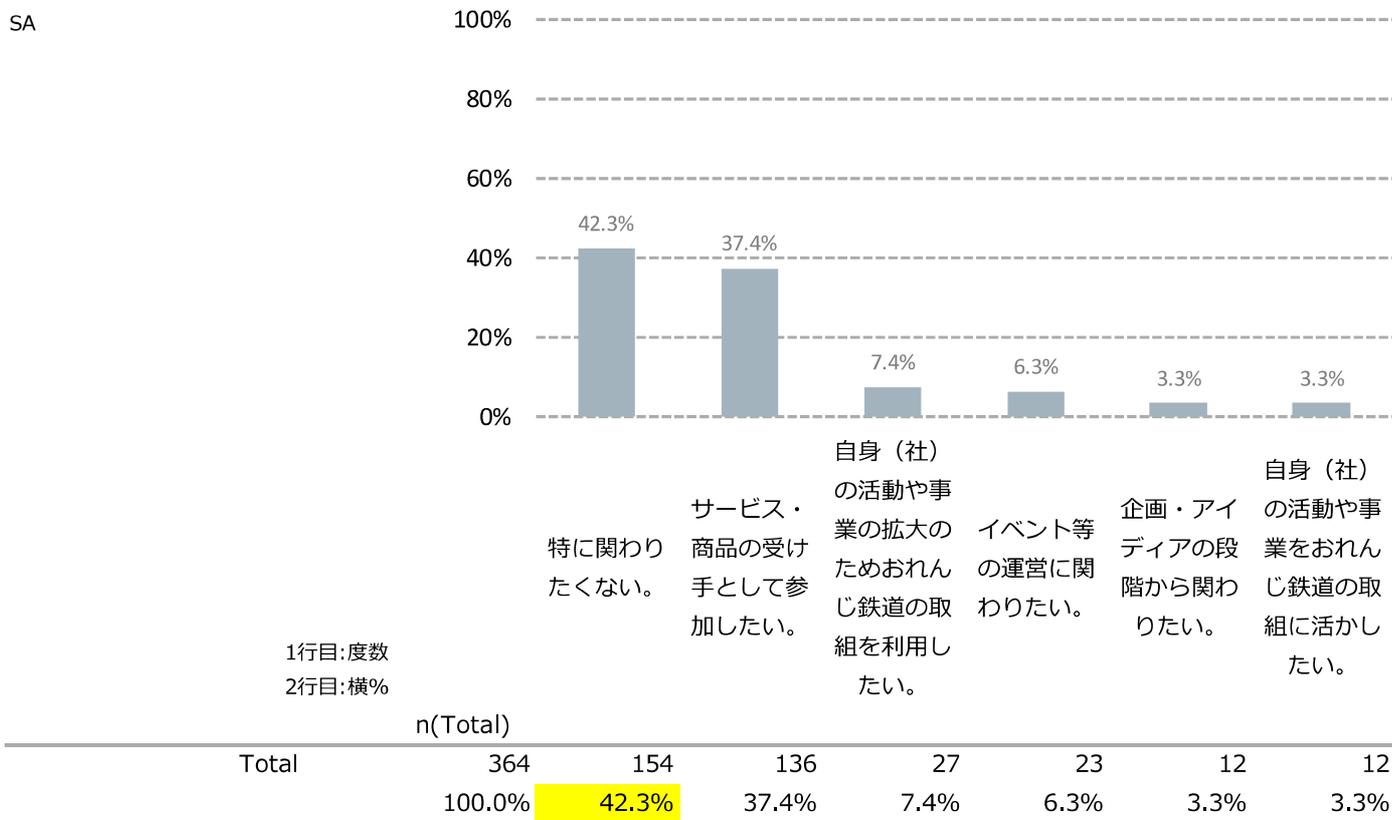


・「とてもそう思う」「ややそう思う」が50%以上の回答となり、さまざまな用途での必要性を認識していることがわかる。

・しかし、「どちらともいえない」の中間の回答も多く、興味・関心が低い層が一定数いる可能性が高い。特に、「特に必要性を感じていない」の質問項目について最多の31.3%となっている。

(1) 「考える場」を創出するための取組 ①アンケート調査

Q9 おれんじ鉄道の安定的な運営には地域住民や地元事業者の参画が不可欠だと考えています。あなたのお考えに近いものを1つ選択してください。



・「特に関わりたくない」の回答が最多の42.3%であった。

・企画や運営、事業拡大、自社の事業をおれんじ鉄道で活かしたい回答は少なかったため、今後重要課題となる「地域住民や事業者の巻き込み方」は検討が必要である。

(1) 「考える場」を創出するための取組 ① アンケート調査

Q10 どのような条件であれば、自主的に参画したいと思うようになるかを教えてください。
(金銭的な援助、行政の補助など可能な限り具体的にご記入ください。)

- ・寄付ができる制度
- ・金銭的な援助、行政の補助
- ・時間延長の運転
- ・周辺住民への割引等サービス（地元住民なら割引になるイベント）
- ・時間的に参加が難しい
- ・夜に手伝えるもの。
- ・大切な貴重なローカル鉄道だとは思っているので、その存在を国内外に広く知らしめるイベント等
- ・アイデアを出し合ったりする会等
- ・おれんじ鉄道の独自のパスポート…(銀河鉄道999のパスポートみたいな)で、参画者一人一人違うものがもらえる
- ・介護をしているので全面的に難しい
- ・参加しやすいフリーマーケットや、なかなか地元ではすぐに体験できないワークショップの開催であれば足を伸ばしてみようと思えると思います。あと駅までのアクセスが自家用車になるので、駐車スペースなどもしっかりと確保できる状況がほしいです。
- ・会社の株を1人、一株以上の購入（一口株主）
- ・電子マネー利用で還元があるなど自分にメリットがあると参加したくなると思います
- ・若年層障害者の交流会
- ・クラウドファンディングでおれんじ鉄道でしか出来ない体験を味わえるような企画を考える。例えば電車中泊。
- ・宮崎県高千穂のアマテラス鉄道みたいな付加価値をつけて値段が高くて乗りたいと思えるような観光
- ・懸賞方式で企画したプランに自分も参加できる
- ・子供が楽しめるようなイベントなら子供のためにと参画したいと思える。
- ・無料で親子や家族で楽しめる
- ・指定席制のゆったりとしたスペースで旅を気楽に楽しめるような鉄旅。
- ・駅周辺の駐車場の整備列車に乗れば駐車料金が無料になるなど
- ・匿名で参加できるもの。
- ・子どもたちのステージショーがいいです。子供と関わる仕事をしていると、一生懸命練習していても披露する機会が少ないと聞きます。芸能でもスポーツでも、披露できるステージがあると参加する子供をはじめ、兄弟や親御さん、祖父母の皆さんも来られるのでたくさん人が来てくれる気がします。
- ・仕事終わりや休みの時に参加できるような、比較的自由度の高いボランティア活動。
- ・農業×鉄道、的な何か出来たらいいのでは
- ・利用者にとっては、思い出や記念になるイベントがあれば、参加すると思います。現時点で、駅近くに住んでない事もあり、イベントの情報が、全く入って来ないので、身近な広報等、情報発信をしていただければ、嬉しいです。
- ・金銭的な援助がなければ、結局、自分で拠出しなければならぬので余裕はない また、仕事や地域の活動等もあるので、参画した場合の活動の回数にもよる
- ・普段入れないところに入る
- ・ボランティア活動であればお弁当ぐらい出れば参加したいと思います。有料の企画、イベントであれば、自分の心が動かされるのであれば参加します。
- ・アイデアを出した場合、おれんじ鉄道にお得に乗ることができると、実際に乗る機会も増えるかもしれない。
- ・川内駅での乗り換えのいらぬ運行
- ・最寄り駅での飲酒イベントがあれば、車を使えないから鉄道を使うかも
- ・新幹線と乗り継ぎ割引
- ・祝、祭日のイベント開催で、例えば地元の特産品などをPRが主とした産業祭的な物のボランティアもしくは、客として参加したいなと思います。

(1) 「考える場」を創出するための取組 ①アンケート調査

Q10 どのような条件であれば、自主的に参画したいと思うようになるかを教えてください。
(金銭的な援助、行政の補助など可能な限り具体的にご記入ください。)

- ・イベント参加、それに伴う参加費が寄付になる。
- ・副業として時間的、金銭的に融通が効けば参加してみたい。リモート、時間的分散等。
- ・無料乗車券が付与される少額の寄付。
- ・参加したら、肥薩おれんじ鉄道沿線の食料品が貰えるなど
- ・駅を中心とした街づくりが行われ、街に鉄道が欠かせないと感じるとき。
- ・税金控除や安く利用でき、有名どころが色んな割引やサービス充実していたら良い
- ・利用者にはポイント付与
- ・グループ参加の割引や高齢者割引があれば参加しやすい
- ・賞金が出るコンテスト
- ・なにかボランティア的なことを参加することによって、乗車割引があったり、列車内のレストランの食事割引などがあれば進んで参加したい
- ・自治体の広報誌などを利用して1年契約でプロジェクトチームを募集してみたらどうか。
- ・お得感のある条件があれば。家族割引、シニア割引、夫婦、計120歳以上割引等がある。
- ・女性専用等の体験ツアー等あれば利用してみたいです。
- ・時間に余裕がない人でも参加しやすいもの
- ・特別限定発売などなかなか手に入りにくいものが買えるなど特別なイベント
- ・私は車を運転しません。駅まで行くのに不便です。そんな人達も迎えに来てくれる。
- ・各駅に置いて、特産品の販売イベントを列車で行動しながら参加できる行事。
- ・交通費の支給（参画の御礼におれんじ鉄道1日乗車券）等あったら交通ついでに観光出来て魅力探しが出来る、等繋がるのではと思います。
- ・長島町まで延伸して下さい。
- ・難しいと思うが沿線の学校との関係を増やせば良いのではと思います。
- ・おれんじ鉄道の仕組みや魅力など、もっと知れたら参画したいと思うかもしれません
- ・参加資格が平等に順番に周ってくる制度。待てば誰にでも機会がある制度。
- ・官民連携で地方活性化の機運を高め、地域コミュニティを巻き込んで自主的に参加したくなるような大きなうねりを作り上げる。それにはまず、人間(個人)の行動原理に訴えかけるようなインセンティブを提供する
- ・おれんじ鉄道が存続できるのであれば内容を問わず参画したいです
- ・鉄道周辺が賑わうのであれば無償でかまわないので参画したい
- ・景観整備
- ・思いつかない、特にない、参画したくないという意見も見受けられる。

(1) 「考える場」を創出するための取組 ①アンケート調査

Q10 どのような条件であれば、自主的に参画したいと思うようになるかを教えてください。
(金銭的な援助、行政の補助など可能な限り具体的にご記入ください。)

※長文のご意見があったので掲載します。(原文)

・まず、年配による企画の決定権をなくすこと。年寄りの企画はだいたい過去に日本中でやりつくした面白みのないものになるし、そもそもそれで成功しているのであれば発展しているはずであるからである。今どき、小さな祭りや地元のお菓子販売、ゴミ拾いではその場限りで永続的に人が動員されるわけがない。そのため、企画自体は徹底的に若者にたくすこと。

次に地元にいるクリエイターやスポーツマン等の力を借りること。「吹上ワンダーマップ」による町おこしの成功例は参考にするべし。ただし、体育会系・文科系どちらかに偏るような企画は避けること。プロでなくても企画・映像・音楽といった活動を行っている、一定の実力を持つ人間は少なからず居る。ダンスであったり、諸スポーツであったり、アイドル活動であったり。様々なジャンルの人間は実は多くいて、YouTubeなどで活動していたりする。そういった人たちに行政の協力を得て大々的に参加を募集し(参加者への十分なインセンティブの支給は当然である)、各駅を中心として街と行政を巻き込んだ催事を企画することが大事である。とにかく継続して動員できるようなイベントを創出すること。

定期的な音楽ライブ、物産展、スポーツ大会、ダンス大会や映画観賞会などなど、最低でも月に1度以上のペースで沿線のどこかでイベントが行われるような状態を恒常化していかなければ、鉄道利用者は増えない。

また、行政と併せて学校へのイベント参加を促すことも重要である。子供たちの催事への参加は将来を考えたとき、その子供たちが大人になったときに足を運んでもらえるか、つまりポジティブスパイラルを繋いでいくという観点から極めて重要である。まずは部活動の参加あたりから始めるとよいだろう。この時、ただそれぞれの学校から参加させるだけでは今までの地元活動の発表会などの延長でしかないので、学校をまたいだコラボレーションなどが有効である。

例えばA高校のダンス部と吹奏楽部にB高校の軽音楽部と運動部といった形で集まり、例えばフラッシュモブのようなものであったり、何か作品を演じてみるのもいいだろう。これらの企画は行政の大きな理解と支援が不可欠である。

地元企業に出資を募るなど、地元社会全体として協力をし、ただし、あくまでも主役と決定権は企画者たる若者にゆだねる覚悟が必要である(スポンサーだから自社商品を展示させるとか、広告を入れるとかを言っていてはこれまでの田舎くさい悪しき慣習と催事規模を越えられない)。イベントや商業施設など、足を運びたいところを作らなければ鉄道の未来はない。

沿線各地の行政・地方自治体とおれんじ鉄道の覚悟が問われているのである。